

四月に就職や転職をした方々は、新しい職場でひと月が経過し、徐々に生活が落ち着いてきた頃ではないでしょうか。また、採用した職場側も新入社員がいる景色やその雰囲気の変化に慣れてきたことでしょう。

人事・労務分野の情報機関である産労総合研究所は、毎年、新入社員の特徴を時事に絡めて発表しています。その発表によると、二〇二五年度の新入社員の特徴は「変化を呼び込む！新紙幣タイプ」だといいます。昨年七月に発行された新紙幣には、偽装防止技術など複数の最新技術が盛り込まれています。今年の新入社員もコロナ禍に学生生活を経験し、授業やアルバイト、就職活動などでこれまでにないオンラインでの取り組みを体験しています。これまでの世代にはない経験を背景に、今年の新入社員は、真面目な姿勢や高い成長意欲、自然なリーダーシップやフオロウシップを発揮できる一方で、失敗や不確実さを回避する傾向も見られると同所は発表しています。

倫理法人会では、毎年三～五月にかけて新入社員を対象とした研修を実施しています。そこでは、一般的な新入社員研修やマナー講習で行なう名刺交換や電話応対などの練習は行ないません。働くことの意義や心構えを学ぶことを目的に、挨拶や返事の実習で自らを開放し、チームワーク実習を通して周囲との協調性を育みます。

また、前向きに仕事に取り組むために、感謝の気持ちを深めることを学び、仕事や人生への向き合い方を見つめ直します。



学びの連鎖と成長の循環、 教えながら学ぶ姿勢

新入社員研修に毎年社員を派遣しているある企業は、入社二～五年目の社員を新入社員の教育担当者として設定し、四～五月に、仕事や研修参加のサポートを行ないます。担当者の一人は、次のように語ります。

「新入社員の人たちには、〈色々教えてあげたい〉と入念に準備をして意気込んでいきましたが、新入社員と共に時間を過ごす中で、その柔軟性や新鮮な考え方など、自分にはないものが多くあり、入社から数年経過した自分自身が、現在、仕事にどのような向き合っているか見つめ直す貴重な機会になっていきます。自分が教育担当者でありながら、新入社員の人たちから色々学ぶことがあります」

教育や研修は、人に教え、育てることを目的に行ないますが、教える側が「教えてやる」という高慢な姿勢ではなく、〈自分も教えられている〉という謙虚な姿勢を持つことで、教育をする側と受ける側の双方の成長につながります。そのためには、教育をする側も、先入観を捨てて、物事を素直に受け止める必要があります。

そうした姿勢を持つことで、上司であっても部下から、先輩であっても後輩から、親であっても子供から学ぶことは数多くあるのです。

立場や役割に関係なく、誰からでも、何事からでも学ぶ姿勢を持つて生活することが、自身のさらなる成長につながります。謙虚な姿勢であらゆる対象から学び、人生を豊かにしていきましょう。